

# 小児救急ガイドブック



小児の事故に対する応急手当や、小児の代表的な救急疾患について、医学書やインターネット等の文献から抽出して取りまとめ、小冊子にしました。有事の際に、参考にさせていただければと考えております。時間外での診療可能医療機関の検索方法なども掲載しておりますので、お子さんのために、ぜひご一読ください。

城陽市消防本部

## けいれん(ひきつけ)

### <けいれんとは？>

けいれんとは、筋肉が発作的に収縮している状態をいい、全身のけいれんから体の一部に起こるものまでさまざまなものがあります。全身のけいれんの場合、一般的には意識を失い、体がガクガクしたり、手足を突っ張ったりし、眼球が上を向いたりすることもあります。

### <病態>

けいれんを起こす病気にはいろいろなものがあり、速やかな治療が必要な場合もあります。初めての場や、5分以上けいれんが続く場合などは、救急車を要請してください。

### 熱性けいれん

乳幼児のけいれんの大半がこの熱性けいれんで、通常 38℃以上の発熱に伴って起こり、脳の異常や感染症など明らかな原因がないものをいいます。脳が急速に発達する年齢層に起こりやすく、好発年齢は2～3歳で、けいれんは多くが5分以内で消失し、けいれん後は睡眠することが多いといわれています。すぐにけいれんが治まれば、心配はないといわれていますが、繰り返しけいれんが起こることもあるので、医療機関で受診することを考慮してください。

### 泣き入りひきつけ(激情・憤怒けいれん)

叱られる、ころぶなどの、泣く誘因があり、泣いた際にけいれん(全身が硬くなって反り返り、顔が真っ青となることが多い)が起こるもので、多くは30秒程で治まります。神経発達が未熟なため、突然の感情的興奮により起こるとされており、特に治療の必要はないといわれていますが、他の病気によるけいれんのこともあるので、医療機関で受診することを考慮してください。

### <応急手当>

- けいれんは抑制せず、衣服をゆるめ、呼吸が楽にできるようにしてあげましょう。
- 周囲に危険物(ストーブなど)がある場合は遠ざけ、外傷を防止してください。
- 嘔吐することがあるので、けいれん後も意識を失っている場合は、体を横に向け、気道確保をしてください。
- 昔は舌を噛むことを予防するために口の中にモノを入れるということがあったようですが、嘔吐を誘発したり、窒息したりする危険があるので、現在の救急の指針では「舌を噛むことを予防する目的で、口の中にモノを入れてはいけません」とされています。



### <ポイント>

けいれんが起こったときは、

- ① どのようなけいれんがどこの部位に起こっているか
  - ② 左右差はあるか
  - ③ 何時頃けいれんが起こり、どれくらいの時間持続したか
  - ④ 何をしている時にけいれんが起こったか(けいれんを誘発するようなことはなかったか)
- について観察・確認してください。これらの情報は医師の診療に役立ちます。

けいれんが起きたときは、とにかく落ち着いて対応することを心がけましょう。

## 腹痛

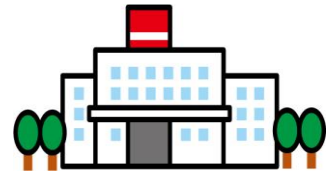
腹痛や嘔吐、下痢は、ちょっとした体調不良でも起こりますが、重大な疾患が隠れていることもあります。特に以下のような場合は、すぐに医療機関で受診してください。

### 腸重積(ちょうじゅうせき)

生後6ヶ月～1歳の赤ちゃんに見られることが多く、突然不機嫌になって激しく泣き、顔色が悪く、嘔吐を繰り返し、便に血が混じりイチゴゼリー様になっているなどの症状がある場合、腸重積という病気が疑われます。この病気は、口側の腸が肛門側の腸管に落ち込み、望遠鏡の筒のように重なって腸閉塞をきたすもので、発症後24時間以内であれば、多くは空気・バリウムを浣腸して注入することで整復できますが、それ以降は手術が必要となることもありますので、この病気が疑われる場合は早急に医療機関で受診してください。

### 虫垂炎(ちゅうすいえん:いわゆる、もうちょう)

おへその周囲がまず痛みだし、それが徐々に右下腹部に移動していくというのが典型的な経過です。右下腹部の痛みが強く、発熱を伴う場合は、この病気を疑います。発見、治療が遅れると腹膜炎を起こし重症化することもありますので、疑われる場合は、早めに医療機関で受診してください。



## せき・呼吸困難

呼吸器系の病気は、重症化すると命に関わるので、注意深く観察し、適切に対応することが大切です。乳幼児の代表的な病気には、以下のようなものがあります。

### クループ症候群

犬が吠えるような、ケンケンという連続性のせきがあり、声が出にくい、息を吸うときにゼイゼイするなどの症状があれば、クループ症候群という病気が考えられます。この病気はウイルスによりのどの奥のほうで炎症が起こっているもので、5歳以下(特に生後6ヶ月～4歳)に見られることが多く、重症化すると窒息して死亡することもありますので、この病気を疑う場合は早急に医療機関で受診してください。呼吸苦がある場合は、救急車を要請してください。

### 喘息(ぜんそく)

呼吸困難があり、息を吐く時にピューピューという音が聞こえる場合は、喘息発作が考えられます。楽な姿勢をとらせ、事前に病院でお薬を処方されている場合は、医師の指示通り使用してください。小児の喘息は急激に悪化することがありますので、



早急に医療機関で受診し、呼吸苦が激しい場合は、すぐに救急車を要請してください。落ち着いて早めに対応し、お子さんを安心させてあげてください。

## 誤飲(ごいん)

乳幼児では、たばこや洗剤、シャンプー、化粧品、ボタン電池など、さまざまなものを誤飲します。誤飲したのものによって、応急手当や処置の内容も異なりますので、誤飲したときは、何をどれくらい誤飲したのかをまず確認し、病院へ持参することが大切です。

### たばこ(ニコチン)

幼児の誤飲で最も多いのがたばこの誤飲です。幼児の場合、たばこ1本丸ごとなど、大量に飲み込むと、急性ニコチン中毒となり、嘔吐やふるえなどの症状が出ますが、大量に誤飲することはまれで、多くは少量口に入れた時点で吐き出します。ただし、たばこの成分は水に溶解すると体内で吸収されやすくなるため、灰皿の水などを誤って飲んだ時は注意が必要です。また、誤飲した際に水を飲ませると、体内で吸収されやすくなるので、水を飲ませないようにします。

### 石油を使った製品

ガソリン、灯油、液体蚊とり、マニキュア、除光液など、石油を使った製品を誤飲した際は吐かせないようにします。石油は少しでも肺に入ると、重症の肺炎を起こすといわれており、吐かせると、その際に肺に入る危険があるからです。また、水を飲ませても石油は薄まらず、嘔吐を誘発する刺激になるため、水を飲ませないようにします。誤飲した際はすぐに医療機関で受診してください。

### 酸・アルカリ性の製品

各種洗剤(カビ取り用、トイレ用、台所用)、漂白剤、染毛剤など、酸性やアルカリ性の製品を誤飲すると、口から食道などの粘膜がただれます。吐かせると、食道や口が再度、酸やアルカリにさらされるため、吐かせてはいけません。粘膜保護のため、牛乳や水を飲ませるのが望ましいとされてきましたが、嘔吐の危険性もあるので、応急手当については医療機関や日本中毒情報センター(次頁参照)へ連絡し、指示を仰いでから実施してください。

### 固形物

小さなおもちゃ、文房具、ボタン電池やピーナッツなど、誤飲の危険のあるものには、様々なものがあります。気道をふさいでいる場合は、緊急事態です。せきをするのが可能であれば、せきを続けさせ、すぐに救急要請してください。「せき」は、異物除去に最も有効な手段です。せきが出来ない場合は、顔を下向きにして体を支え、背中をたたくなどして、異物除去を試みてください。

飲み込んで胃に落ちれば多くは便として排泄されますが、ボタン電池やとがったもの(薬の空きパックなど)は、消化管を損傷する可能性があるため、すぐに医療機関で受診してください。また、ベビーパウダーは、吸入して気管に入った場合、粘膜に付着して粘膜を乾燥させ、除去困難となり、窒息死する可能性があります。吸入した場合はすぐに医療機関で受診してください。





## <日本中毒情報センター 中毒110番>

中毒110番では、化学物質(たばこ、日用品など)、医薬品、動植物の毒などによって起こる急性中毒について、実際に事故が発生した場合に限定して情報提供されています。

一般市民向け

大阪中毒110番 **072-727-2499** (365日24時間 情報提供料無料)

つくば中毒110番 **029-852-9999** (365日9時~21時 情報提供料無料)

乳幼児は手当たり次第に口の中に物を入れます。子供の手の届くところにたばこや化粧品、薬などを置かないことや、灰皿には水を入れておかないことが大切です。

## 溺水(できすい)

### <溺れている人の救助>

溺れている人を見つけたら直ちに119番通報し救助を要請します。ロープやつかまって浮くことができるものがあれば、投げ入れます。



溺れている人の救助は専門家に任せるのが原則です。救助者が巻き込まれて溺れるケースが多いため、うかつに飛び込んではいけません。溺れている人が水没したら、その地点の目標を決めておき、到着した専門家に伝えてください。

### <子供の溺水事故>

海や川での溺水だけでなく、浴槽や洗濯機での溺水も実際に発生しています。乳幼児のいる家庭では、浴槽にお湯を残さない、浴槽の蓋は丈夫なものにする、小さな子供だけで入浴させない、浴室に入れないように工夫するなどしておきましょう。お母さんが髪を洗っている間に溺れたという事例もあります。海や川ではもちろん、小さなお子さんの場合はお風呂でも、お子さんから目を離さないようにしましょう。



## 熱傷

子供のやけどの約8割は家庭内で起こっているといわれています。台所やお風呂、ストーブなど、危険なものに子供が手を触れられないように工夫することが必要です。



**食卓では**…テーブルクロスは子供が引っ張って上の物をこぼすので使わないようにする。大人が抱っこしたまま食事しないようにする。熱い鍋などを足元におかないようにする。

**台所では**…ガスレンジ、グリルなど使用中は、子供を台所に近づけないようにする。

**居室では**…ストーブなどに手を触れられないように柵などをして工夫する。アイロン使用中は子供を近づけないようにする。

**浴室では**…子供を一人にしないようにする。沸かしたての浴槽に近づけないようにする。風呂の蓋は丈夫なものを使うようにする。浴室には鍵をかけるなど工夫する。

### <応急手当>

やけどをした後は、すぐに水道水などの清潔な水で冷やします。冷やすことにより、やけどの進行・悪化の防止や、痛みの軽減などの効果が期待できます。

### ポイント

★ 水ぶくれは破くと感染の危険があるので、基本的には破いてはいけません(化学薬品等によるやけどの場合は破くことがあります)。水で冷やした後は、ガーゼなどで覆って保護しましょう。

★ 衣服の上からやけどした場合は、衣服を脱がさず、衣服の上から水をかけて冷やしてください。衣服を脱がすことにより、水ぶくれを破いてしまう可能性があるためです。



★ 範囲の広いやけどの場合、すぐに119番通報をし、冷却して救急車の到着を待ちますが、冷やしすぎると低体温となってしまうので、傷病者の状態を見ながら、冷却は10分以内にとどめてください。

★ 火事などで煙を吸ったときは、体表面だけでなく、気道や肺もやけどを負っている可能性があるため、救急車を要請し、医療機関で受診してください。

## 事故を予防するために

子供の死因の主な原因のひとつに「不慮の事故」による死亡があります(令和2年厚生労働省人口動態統計)。

子供の事故死のほとんどが、ちょっとした不注意によるものなど、予防できたものといわれています。日頃から、住環境の整備や、親、子供の注意力向上に努めましょう。

以下に実際にあった子供の事故事例を紹介しますので、参考にしてください。

- ★ 3歳女児。テレビのリモコンをなめていて、中のボタン電池を誤飲した。
- ★ 母親と2歳、4歳の子供が一緒に入浴中、母親が髪を洗っている間に4歳の子供が溺れた。
- ★ 夕食時、箸を運んでいた5歳の男児が、じゅうたんにつまずき転倒、持っていた箸が眼に刺さり、頭蓋内損傷。
- ★ スプーンをくわえたまま遊んでいた3歳男児が転倒し、右頬粘膜裂傷。
- ★ 2歳男児。沸騰している湯が入った鍋を手で引っ張ってこぼし、全身の30%にやけどを負った。
- ★ 5歳女児。風呂釜のガスを止めようとして浴槽の蓋の上に足をかけたところ、転落して全身の20%にやけどを負った。
- ★ 自転車の前に取り付けてある幼児用座席に子供を座らせたまま、親が買い物のため自転車から離れている間に自転車が倒れ、コンクリートの地面に右側頭部を打撲し、頭蓋骨骨折。



## 子供の救急 お役立ち情報

救急車を呼ぶほどではないが、病院を受診したい場合の診療可能医療機関の検索や、病院を受診するかの判断に迷ったときなどに、ご活用ください。

### 「救急安心センターきょうと」

府民及び府内に滞在する人に対し、24時間365日(年中無休)で看護師から受診の必要性や対処方法等の適切な助言、医療機関案内を受けることができる電話相談サービスがあります。急な病気やけがをした際、病院へ行くかどうかの判断に迷われた場合などには、まず電話で相談されることをお勧めします。

#### <利用方法>

固定・携帯電話から【#7119】でご利用いただけます。

※ダイヤル回線、IP電話の場合は、**0570-00-7119**に直接ダイヤルしてください。

※笠置町・南山城村等は、電話の区域が隣接する他府県に所属しますので、

**0570-00-7119**に直接ダイヤルしてください。

相談対象:全年齢

相談時間等:年中無休

### 「京都府小児救急医療電話相談」

お子さんの急な発熱や吐き気などの症状に対して、小児科医や看護師がアドバイスをしてくれるこの電話相談は、病院や診療所が休診となる空白時間帯をカバーし、保護者の方に安心感を与えてくれるサービスで、病院へ行くかどうかの判断に迷われた場合などには、まず電話で相談されることをお勧めします。

#### <利用方法>

京都府内の固定電話、携帯電話から【#8000】でご利用いただけます。

※ダイヤル回線、IP電話の場合は、**075-661-5596**に直接ダイヤルしてください。

※笠置町及び南山城村の全域と西京区及び伏見区の一部地域は、電話の区域が隣接する他府県に所属しますので、**075-661-5596**に直接ダイヤルしてください。

相談対象:15歳未満の子供およびその家族等

相談時間等:1年365日 午後7時から翌朝8時

※土曜日(祝日・年末年始を除く)は午後3時から翌朝8時

### 「ONLINE QQ こどもの救急ホームページ」(「財団法人 日本小児科学会」監修)

<http://kodomo-qq.jp/index.php>

夜間や休日などの診療時間外に、病院を受診するかどうかの判断の目安になります。チェック欄に掲載されている症状の中から、お子さん(対象年齢は生後1ヶ月～6歳です)の症状に当てはまるものをチェックし、結果ボタンをクリックすると、お子さんの症状に合わせた対処方法



が表示されます。

## 「京都健康医療よろずネット」

<http://www.mfis.pref.kyoto.lg.jp/>

ホームページ上の「診療中の救急医療機関」をクリックし、「地域」「救急科目」等を選択し、「照会」をクリックすると、現在診療可能な救急医療期間が表示されます。

※ 城陽市の「地域」は「山城北」に分類されます。

※ 病院検索後は、直接病院へ電話連絡し、診療可能であることを確認してから病院へ行くようにしてください。

**消防署でも病院紹介を行っています。 ご気軽にご連絡ください。**

**城陽市消防署 救急課 52-0697**